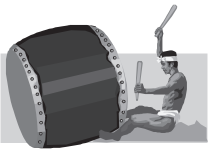

わたしの夢づくり 絆

自らの学びや経験を生かして地域で積極的に活動する
方々を訪問し、実際に活動する様子や生の声を取材します。

～東日本大震災被災者から学んだ「絆」～

國分光一郎さん（平成２２年度「地域夢づくり講座」受講生）

　プロの太鼓奏者として活動する傍ら、和太鼓を通じて青少年の育成を目指す NPO 法人の活動もされています。春日井市にある國分さんが代表を務める転輪太鼓の稽古道場でお話を伺いました。

和太鼓で描く夢

　子どもの頃から夢中で和太鼓を練習したという國分さん。和太鼓奏者としての道を進む中、太鼓を通じた青少年の健全育成や途上国の人々も参加できる“打楽器のワールドカップ”開催など、國分さんの夢は広がりました。そんな時に『地域夢づくり講座』が開催されることを知り、参加したところ、夢の実現に向け、具体的な道筋が見えてきたそうです。

多くの人を応援したい

　エクササイズとして取り組む方やコンテストを目指して練習に取り組む方など、転輪太鼓の会員の目的は様々ですが、和太鼓を楽しむ姿は共通です。「太鼓は叩けば音が出るので、初心者でも取り組みやすく、人を元気にするパワーがあります。転輪太鼓のテーマは、活動を通していろいろな人を応援していくことであると考えています」と話す國分さん。取材中も会員による力強い和太鼓の音が道場に響きます。

第八回東京国際和太鼓コンテストで日本一になった、転輪太鼓ジュニアチーム

被災地で気づいたこと

　國分さんは、東日本大震災で被災された方に和太鼓で元気になってもらいたいと考え、リヤカーに和太鼓を乗せ、春日井市から岩手県陸前高田市まで、約1000㎞を踏破されました。被災された方は失うものばかりであろうと考えていたそうですが、実は手に入れたものがあったそうです。それが人と人を結ぶ絆でした。生き残った者同士がお互いを思いやる姿や、ボランティアのみなさんが献身的に被災された方々に寄り添う姿を通して國分さんに伝わってきたそうです。「応援に行った私たちが反対に励ましの声援を頂きました」と感慨深く話されました。

和太鼓を乗せて運んだリヤカー

人と人との絆を伝えていきたい

　被災者の方と話を深める中で、國分さんは、和太鼓を通して次代を担う子どもたちに、絆の大切さを伝えていかなければならないと考えるようになりました。子どもたちが人や地域とのつながりを大切にする心を育み、成長していけば、地域の絆もきっと深まっていくと信じて今日も和太鼓を叩きます。國分さんの和太鼓で描く夢は、実現に向かい着実に進んでいます。

≪問合先≫　『転輪太鼓』　代表　國分光一郎
TEL　0568-70-3511　FAX　0568-58-1603
ホームページ：http://www.tenrindaiko-gaia.com